

令和 8 年 9 月 4 日

サイエンスアゴラ 2026 への出展について（ご案内）

福井大学宙（そら）テクノロジー研究センターは、9 月 12 月（土）～13 日（日）に開催されるサイエンスアゴラ 2026（主催：科学技術振興機構）に「観る？行く？住む？宇宙との距離、どこまで近づく？」を出展します。

本展示では、宇宙を「観る」「行く」「住む」という 3 つの視点から、宇宙研究の今と未来を身近に体験できます。

「観る」では、1 辺 10cm の超小型人工衛星 (1U CubeSat (ワンキューブサット)) の実物やハイパースペクトルカメラのデモ展示を通して、宇宙からの地球観測を紹介。「行く」では宇宙医学の最新研究、「住む」では、火星での暮らしをモチーフに、水を使わない染色技術や省エネルギーで植物に光を照射する技術などを体験できます。

「宇宙を観るのか、行くのか、住むのか」。異なるスケールの宇宙研究を体験しながら、宇宙と自分とのつながりを考えてもらう展示です。

記

日 時 令和 8 年 9 月 12 日（土） 10:00～18:00

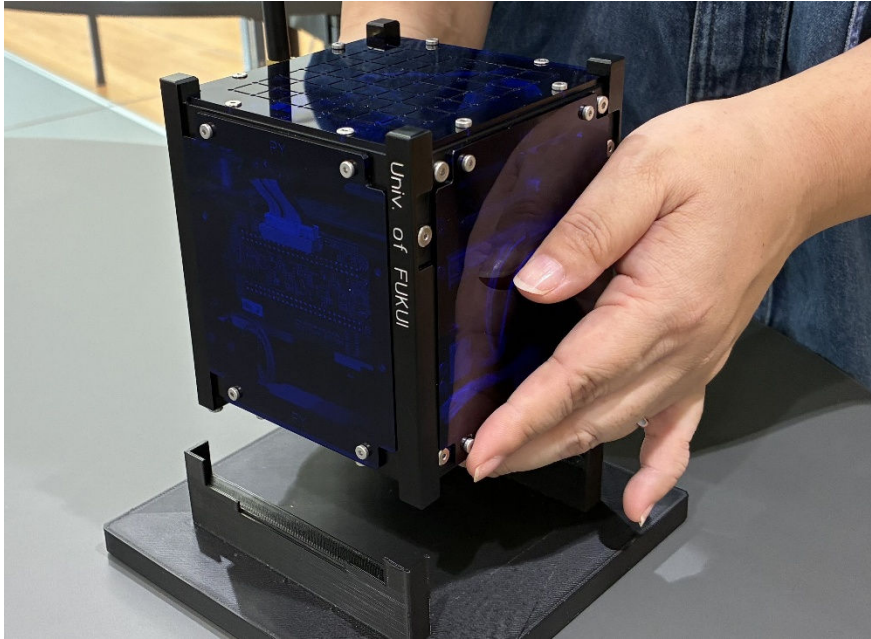
9 月 13 日（日） 10:00～17:00

場 所 テレコムセンタービル 5 階（東京都江東区）

イベント URL

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2026/>

● 展示物の一部



↑ 教育用小型人工衛星「EDIT」。

手のひらに乗る大きさの人工衛星に触れ、小型人工衛星を身近に感じることができる。



↑ 水を使わない繊維の脱色・染色技術（超臨界流体技術）を施した服

超臨界流体技術により、水を使わずに服の「脱色」から「再染色（赤・青）」までを行なったサンプル。火星など極限環境での生活を見据えるとともに本技術は、地球上の水資源保護や資源循環にも直結する。宇宙と地上をつなぐイノベーションを、実際に触れて体感できる。

● 宙テクノロジー研究センターについて

センターでは、超小型人工衛星による地球観測、宇宙医学、宇宙での長期滞在を見据えた閉鎖系における資源循環など、宇宙に関わる幅広い研究を進めています。また、地域産業と宇宙技術を組み合わせる「ふくい宙クロスイノベーション推進拠点」の中核として、宇宙と地上の技術をつなぎ、新たな技術や産業の創出を目指しています。

● ふくい宙クロスイノベーション推進拠点とは

福井大学は、福井県や県内企業と連携し、人工衛星の製造・利活用に関する技術開発や人材育成に取り組んできました。

これまで地域企業・自治体とともに作りあげてきた“福井発の宇宙開発の取り組み”を、次の成長フェーズへと発展することを目指し、宇宙関連技術と地域の産業技術を融合し新たな研究・産業領域を創出する「ふくい宙（そら）クロスイノベーション推進拠点」の構築を目指します。本拠点では「地上の技術を宇宙へ。宇宙の成果を地上へ」をキーワードに、地域の課題解決と新たな産業の創出を目指します。

FUKUI SARA
CROSS INNOVATION

ふくい宙クロスイノベーション